

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.232 2021.1.1

明けまして
おめでとうございます
本年もよろしくお願いたします



美ヶ原牧場のウシたち

十二支には 12 の動物があてはめられています。その半数が古くから重用されてきた家畜に由来し、人と動物の長い歴史を伺わせます。今年の干支の丑、ウシもその1つです。

家畜化される前の野生のウシ(オーロックス)は、かつては主にユーラシア大陸の広範囲に生息していましたが、生息環境の減少や乱獲により絶滅してしまいました。日本でも旧石器時代の遺跡から骨が発見されていて、狩猟対象として私たちの祖先と関りがあったことが分かっています。家畜としての起源は 8000 年ほど前の西アジアとされ、日本には弥生～古墳時代に持ち込まれました。かつては農耕や運搬に重宝され、ウシにちなんだ伝承や文化が各地に残されています。現在では、主に食用として私たちの生活を支えてくれています。

もくじ	誌上博物館	◇ 北沢喜代治「妙な幸福」論考	2-3
		◇ 松本城にやってくるカモたち	4-6
	博物館TOPICS	◇ 大人気!ぬりえコーナーのご紹介	6
		◇ あめ市歴史展示「あめ市近現代史」	7
	資料紹介	◇ カッコウ時計とハト時計	7
	ガイドコーナー	◇ はんでんぼく	8



北沢喜代治「妙な幸福」論考

～ 〈八重が幸福になるための要因とは何か〉を考える工夫について～

1 はじめに

北沢喜代治は、明治39年(1906)長野県須坂町(現：須坂市)で生まれました。大正13年(1924)には松本高等学校に入学、卒業後は東京帝国大学(現：東京大学)へ進学しました。その後は富山県での教諭を経て、昭和15年(1940)に松本高等女学校(現：松本蟻ヶ崎高等学校)の教諭となりました。退職後は松本市議会議員を務め、また、松本市で文芸雑誌『屋上』を発行しました。今回は松本市に縁の深い作家・北沢喜代治の小説「妙な幸福」の表現を分析的に読み、「妙な幸福」の新しい読み方を導き出したいと思います。

2 「妙な幸福」のストーリー

まず、「妙な幸福」のストーリーを各場面の視点に注目して整理していきます。①この物語は主人公・坂田八重の視点から始まります。55歳を過ぎた八重は「通俗雑誌の見出しが、映画の広告文かで、『女が幸福であるのは、人から愛される、か、人を愛している、かの時である』と読んだことを覚えている。[中略]ところが、八重の思い出に、現在の夫との、可なり長期にわたる結婚生活をもふくめて、真そこから自分が人に愛されたという印象が、どこにも残されていないのである。」というように、自らの人生を振り返りながら、〈自分は幸福なのか〉について考えます。また、八重は額に深い傷跡があり、この傷のせいで幸せになれなかったのでは、と自問します。②その後、視点は八重の夫である坂田金弥に切り替わり、金弥の教師生活や退職後の生活について述べられます。③視点は再度八重に切り替わります。夕食後、2階の部屋で音楽を聴いていた金弥が遅くまで降りてこないことを不審に思った八重が様子を見に行くと、金弥が死んでいるのを見つけます。④そして、視点は金弥の友人(木田を中心に、水口・栗林)に切り替わります。金弥の友人たちは、八重から金弥の残した金の在り処を知っているかどうか聞かれます。死んだ金弥の金を探しあてようとする八重の様子を見た木田は、「二人(八重と金弥)が、つねにいつしよにしながら、二人の間の子供まで育てながら、しかも二人が、全然別個の、一人、の生活をしていたということは、ただ不幸だつたといつてのけるには、余りにみじめな、やり切れない、



北沢喜代治「妙な幸福」表紙
(旧制高等学校記念館蔵)

皮肉なめぐり合せではなかつたか。」と述べ、いたたまれない思いを抱きます。⑤再び視点は八重に切り替わります。八重は、金弥の先妻の子どもが太平洋戦争で戦死しており、その遺族年金が自身に支給されることになったことを知ります。しかし、八重は「これで、幸福にありついた、といえるのだろうか。」と自問します。⑥最後に、視点は木田に切り替わります。木田は、八重から八重の娘・利子が嫁へいくための世話をしてほしいと頼まれます。写真に写る利子は、金弥似の美人でした。八重の額の傷を想像で利子に付け加えると、木田は自分の口が笑いで歪んでくるのを感じ、そこで物語は終了します。

3 「妙な幸福」を焦点化を用いて読む

ジェラルド・ジュネットが提示した物語論の中に、「焦点化」があります。焦点化には次に示す3種類があります。1つ目は「焦点化ゼロ」。これは、全ての登場人物の心中を含め、物語の全情報を把握している視点(=全知の視点)を指します。2つ目は語り手が知覚している情報と登場人物の知覚している情報とが一致している視点である「内的焦点化」、3つ目は登場人物の思考・感情・感覚などを描かず、外面しか描かない視点である「外的焦点化」です。

「妙な幸福」では、視点が〈表〉のように切り替わります。

①③⑤の八重の視点では、八重に内的焦点化されています。しかし、①では、「夫は、八重の仕事のできればを、ほめる気持で、『敷ぶとんと、掛ぶとん、の綿の割合は、どんなことにしたね。』ときいてきた。それが八重にとつては、まことに意地わるい言葉にひびいた。」とあり、八重の知りえない夫・金弥の心情(ほめる気持)が書かれています。つまり、全知の視点から書かれているといえます。また、③では「金弥の謠いの声のと切れたのを、しかし、下では誰も気づかなかつた。」とあり、これも「誰も気づかなかつた」ことが書かれているため、全知の視点であるといえます。このように、①③では、八重への内的焦点化が主にはなりますが、全知の視点である焦点化ゼロも取り入れながら文章が書かれています。

②は金弥に内的焦点化されています。しかし、「夜おそく、坂田の家の二階から、謠いのこえが流れはじめると、近所のは、『やっぱり先生、さびしがっているんでしよう。』と噂しあつた。」という文章があり、ここでは、金弥の謠いを聴いた近所のもの達の心情が書かれていることから、全知の視点に

〈表〉

	場 面	視 点	焦点化
①	主人公・八重が自らの人生を振り返りながら、〈自分は幸福なのか〉について自問する	八重	内的焦点化 (一部に「焦点化ゼロ」が取り入れられている)
②	八重の夫・金弥の教師生活や退職後の生活について述べられる	金弥	内的焦点化 (一部に「焦点化ゼロ」が取り入れられている)
③	金弥が2階の部屋で死んでいるのを八重が見つかる	八重	内的焦点化 (一部に「焦点化ゼロ」が取り入れられている)
④	金弥の友人たち(木田・水口・栗林)が、八重から金弥の残した金の在り処について聞かれる	金弥の友人たち (木田を中心に水口・栗林)	内的焦点化
⑤	金弥の先妻の子どもの遺族年金が八重に支給される	八重	内的焦点化
⑥	金弥の友人・木田が、八重から娘・利子が嫁へいくための世話をしてほしいと頼まれる	金弥の友人(木田)	内的焦点化

なっているといえます。

④では、金弥の友人である木田を中心に、水口・栗林に内的焦点化されており、⑥では木田に内的焦点化されています。

以上のように、「妙な幸福」に焦点化を用いた分析をすると、一つの疑問点が浮かびます。それは、「金弥は八重を愛していたのかどうか」ということです。なぜなら、本文中で、「真そこから自分が人に愛されたという印象が、どこにも残されていないのである。」と述べられているのは、①の八重に内的焦点化されている部分であるためです。また、八重と金弥のことを、「ただ不幸だつたといつてのけるには、余りにみじめな、やり切れない、皮肉なめぐり合せではなかつたか。」と述べているのは、④の木田に内的焦点化された部分になります。つまり、八重の主観では、夫である金弥からは愛されていなかったと感じており、木田の主観では、八重と金弥は夫婦であるのにもかかわらず、そこに愛があったのか疑問に感じられたということになります。

しかし、ここで注目したいのは、②の金弥に内的焦点化された部分には、「金弥は八重を愛していた」とも、「金弥は八重を愛していなかった」とも書かれていないことです。そのため、金弥が八重を愛していたかどうか、本当のところは分かりません。では、それは何を意味しているのでしょうか。

4 「妙な幸福」における空所とは

ここでは、「金弥は八重を愛していたのかどうか」ということが謎、すなわち「空所」になっています。ヴォルフガング・イーザーは、小説中の空所について論理的検証を行い、「空所は読者の想像活動をひき起こす」としています。要するに、読者は小説の空所を埋めないと小説の意味を読み取ることができないため、その空所を埋めようと想像力を駆使します。そのことが、読者の小説の意味を捉えようとするモチベーションを高めることになります。

「妙な幸福」における「金弥は八重を愛していたのかどうか」という空所は、八重が感じていた「金弥から愛されていないため、自分は幸福ではない」という部分を有耶無耶にしています。金弥は八重を愛していたのかもしれませんが、それにもかかわらず八重が自らを「幸福ではない」としている場合、その要因は別のところにあるためです。しかし、「金弥は八重を愛していたのかどうか」ということが空所であるため、「八重が幸福になるための要因とは何か」が、物語中で分からないままになっています。

つまり、「金弥は八重を愛していたのかどうか」を空所にするのは、読者に対し「八重が幸福になるための要因とは何か」を考えさせることに繋がっているということができます。

5 まとめ

「妙な幸福」の先行研究は、下記参考文献の※1や※2が挙げられますが、いずれも作品の概要を説明するまでとなっており、深い考察はなされてい



北沢喜代治作品(旧制高等学校記念館蔵)

ませんでした。今回は、文芸理論である「焦点化」及び「空所」を用いて読み直しました。その結果、「妙な幸福」は読者に対し「八重が幸福になるための要因とは何か」を考えさせる工夫がなされた物語であるということができ、新しい読み方を導き出すことができたと考えています。

(松本市立博物館 学芸員/本間 花梨)

○この原稿を書くにあたり、神奈川大学教授 松本和也先生にご指導いただきました。この場を借りて感謝の意を表します。

○参考文献

- ・北沢喜代治『妙な幸福』(信州書房、1960)
- ・大坪かず子『「妙な幸福」を読む』(『屋上』48号、1981) ※1
- ・ヴォルフガング・イーザー『行為としての読書 美的作用の理論』(岩波書店、2005)
- ・三木ふみ『北沢喜代治一人と作品』(『屋上』の会、2007〈非売品〉) ※2
- ・松本和也『テキスト分析入門』(ひつじ書房、2016)

松本城にやってくるカモたち

1 はじめに

カモとはカモ科の鳥のうちハクチョウとガンを除いたものの総称です。その多くは春から夏にロシアなどの国外で繁殖し、秋になると越冬のため日本にやってくる、冬の水辺の風物詩です。それは松本城の濠でも同様で、冬になると毎年何種類かのカモを観察することができます。

松本城の濠は近隣の観察スポットに比べ細長い形のため、比較的近くでカモを観察することができます。今回は、過去2年間に松本城で実際に観察したカモたちを紹介します。

2 常連のカモたち

松本城で継続的に観察できたカモは5種います。

カモは越冬地でつがいになるため、カルガモを除きオスはメスと異なる種特有の美しい姿(繁殖羽)をしています。年が明ける頃には雌雄が一緒にいることが多く、観察するのなら、まずはオスに注目すると良いでしょう。

マガモ *Anas platyrhynchos* (左:メス 右:オス)



日本に渡って来るカモの仲間では個体数が最も多い^{*1}が、松本城で観察できる数は少ない。少数だが、国内で繁殖するものもあり、市内では上高地などで観察しやすい。オスは光沢のある緑の頭に黄色いくちバシが特徴。家禽のアヒルはこのマガモを品種改良したもの。

カルガモ *Anas zonorhyncha* (左:オス 右:メス)



松本城で最も個体数が多く、多い日には300羽近くになる。日本には周年生息し、普段は単独で生活しているが、冬になると群れるため目につきやすい(北海道や国

外から渡ってくる個体もいる)。

先端のみが黄色いくちバシで他のカモと見分けられるが、他種とことなり雌雄の判別は難しい。詳しくは後述の付録を参照。

コガモ *Anas crecca* (左:オス 右:メス)



その名の通り「小さいカモ」で、他のカモに比べて小型(左の写真後ろはカルガモ)。その小さい体を活かして石垣の上で休憩する様子は、この付近では松本城ならではの光景で、多い日には70羽以上の群れになる。

オカヨシガモ *Mareca strepera*^{*3} (上:メス 下:オス)



日本に渡って来るカモの中ではあまり多くない種だが、松本城では2~30羽ほどが観察できる。水面に顔をつけてエサを探す姿がよく見られる。オスは全体的に灰色で他のカモに比べて地味。

ヨシガモ *Mareca falcata*^{*3} (左:メス 右:オス)



こちらもあまり多くない種。松本城ではこの2年、年明けから最大4羽が観察できた。オスの頭は緑の光沢があり、横から見た形はナポレオンの帽子に例えられる。尾の方にある鎌状の羽も特徴。

3 珍しい顔ぶれ

これまで紹介した5種の他にも1シーズンを通すと様々なカモを見ることがあります。どの種においても、オスが、単独で、短期間観察できる傾向があります（以下の写真はすべてオス）。もしかすると、つがいとなるメスを求めて各地を移動しているのかもしれませんが。オナガガモとヒドリガモは日本に渡ってくる数は多い種^{*1}ですが、松本城ではあまり見られません。

オナガガモ *Anas acuta*



その名の通りオスの尾羽が長い。ハクチョウの餌付けをしている場所で数多く見られる。

ヒドリガモ *Mareca penelope*^{**3}

漢字で書くと「緋鳥鴨」で、オスの赤茶色の頭に由来する。



ハシビロガモ *Spatula clypeata*^{**3}



名前の由来である平らで幅広いクチバシでプランクトンを濾して食べる。オスは目が黄色なのも特徴的。

トモエガモ *Sibirionetta formosa*^{**3}

絶滅危惧Ⅱ類に指定されるほど数が少なく、2019/12/20に一度だけ観察。コガモほどの大きさで頭の巴模様が特徴。



オシドリ *Aix galericulata*



「おしどり夫婦」の語源として有名。オスの鮮やかな色とイチョウ形の羽が特徴的。長野県には周年生息。

4 見られるカモの傾向について

日本で多く見られるカモ^{*1}の中でも、松本城における観察では偏りがみられました。何故でしょうか？

カモの仲間は基本的には夜行性です。松本城でも観察されるように、日中は天敵が近寄りにくい水辺で休憩し、夜間は餌場に適した湿地や陸地に移動します。

松本城であまり見かけないカモに着目してみましょう。オナガガモ、ヒドリガモは日中も比較的活動的なカモです。また、潜水採餌ガモ^{*2}については松本城ではほぼ見られません。これらのカモにとって、昼間の餌場としては適さない松本城は、あまり魅力的ではないことが、種類の偏りの理由の一つと考えられます。

また、マガモとカルガモは個体数がどちらかに偏る場所が多くあります。例えば安曇野市の御宝田遊水地は、松本城と逆で、マガモが非常に多くカルガモが少ない傾向があります。

5 おわりに

今回紹介したカモは、長野県で観察できる水面採餌ガモ^{*2}をほぼ網羅しています。様々なカモがいることを知ると、松本城の違う側面が見えてきます。また、メスや潜水ガモを観察したければ別の水辺を訪ねてみるのも良いでしょう。身近な水辺にどのようなカモがいるか注目してみてください。

(山と自然博物館 学芸員/内川 潤季)

※1 2020年全国の調査地での観察数（単位：羽）

マガモ	カルガモ	コガモ	オカヨシガモ	ヨシガモ
403,544	216,056	204,975	20,268	11,999
オナガガモ	ヒドリガモ	ハシビロガモ	トモエガモ	オシドリ
184,938	160,278	20,880	3,292	22,363

(環境省：ガンカモ類の生息調査より)

※2 カモ類は、水面や陸上で餌を食べる傾向にある水面採餌ガモと水に潜って餌を食べる傾向にある潜水採餌ガモに分けられる。潜水採餌ガモは昨年1度だけ、ミコアイサ *Mergellus abellus* を観察。

※3 日本鳥類目録ではマガモ属 (*Anas*) とされているが、最新の国際鳥類学会による分類を表記。

松本城にやってくるカモたち 付録

○カルガモの雌雄の見分け方



写真左がオスで右がメス。見分けるポイントは2つ

- ① オスは尾羽の上下の羽毛の色が黒い
 - ② メスは羽毛の縁の白い部分が多い
- ただし、個体差があるので注意が必要。

○カモに関する用語①：翼鏡よくきょう

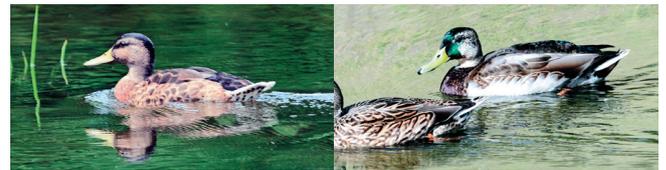
カモ類の翼にある金属光沢のある部分のこと。構造色で光の当たり方で色が変わって見える。色の地味なメスやカルガモでもこの部分は美しく、種を見分けるポイントになることもある。



○カモに関する用語②：エクリップス

松本城で冬の間に見られるカモのオスは美しい姿だが、繁殖期を終えるとメスの様な地味な姿になる。これを日食や月食になぞらえエクリップスと呼ぶ。松本でも周年みられるマガモやオシドリはもちろん、渡ってくる種についても渡来したばかりの頃はエクリップスや、羽が生え変わる途中の姿を観察できる。

また、生まれて初めて繁殖期を迎える前の幼鳥も地味な姿をしていて、エクリップスと同様に観察できる。



マガモのエクリップス。特徴的な黄色いクチバシは変わらない。右の写真は松本城で撮影



ヨシガモのオス幼鳥(左)とオナガガモのオス幼鳥(右)どちらも松本城で撮影。

博物館

TOPICS

松本市四賀化石館 Tel.0263-64-3900

大人気！ぬりえコーナーのご紹介

松本市四賀化石館では、1階展示ロビーにぬりえコーナーを設けています。平成26年度の設置以来、今では化石館随一の大人気コーナーとなりました。

化石館のぬりえは、ティラノサウルスやステゴサウルスといったお子さんに人気の恐竜をはじめ、化石館の目玉シガマッコウクジラ、長野県の天然記念物シナノトドなどの豊富なデザインを用意しています。ぬりえの原画は、松本市でイラストレーターとしてご活躍されているスズキサトルさんから提供していただきました。どれも可愛いデザインで、ワクワクした気持ちでぬりえができます。ぬりえを楽しむことで化石に興味を持てるようになるところが化石館のぬりえコーナーの魅力です。



過去のぬりえ大賞作品

平成29年度からは、提出していただいたぬりえの中から特に素晴らしい作品を選ぶ「ぬりえ大賞」を実施しています。賞は、館長賞、学芸員賞、スズキサトル賞、大人のぬりえ賞を設けており、お子さんから大人の方まで楽しんで



ぬりえに熱中するお子さん達

いただけます。賞に選ばれた作品は、パネルにして化石館の展示の一部として展示中です。

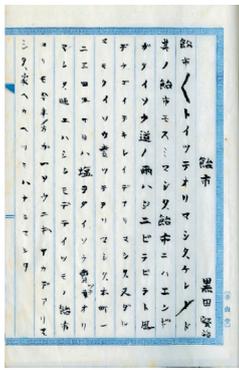
化石と聞くと難しいイメージを持ってしまう方も多いと思いますので、まずはぬりえを通して化石の面白さを感じてみませんか？

(松本市四賀化石館 学芸員/小林駿)

松本市時計博物館 Tel.0263-36-0969

あめ市歴史展示「あめ市近現代史」

今回の企画展では、「あめ市近現代史」と題し、明治・大正・昭和・平成と変化する激動の時代に対し、あめ市がどのように移り変わっていったか、その歴史について紹介します。



尋常小学校4年生のあめ市の作文
(旧開智学校校会蔵)

本誌では、尋常小学校の4年生達が、大正3年(1914)にあめ市について書いた作文の一部を抜粋し、大正期のあめ市について紹介します。

まず、町の様子について「町ノニギヤカナコトハマルデ目ノマワルホドデアリマス。町ノ両ガハニハ、飴ダノ、本ダノ、エンギナドアマタノ店ガ、ナランデ居マス」と書かれています。

町の両側に飴や縁起物の屋台が並んでいて多くの人出があり、また、町の商店の様子を「ガスヤ電気ヤ球燈デ、店ヲカザツテ晝ノヤウデアリマス」と表現しています。当時のあめ市は、神輿のお練りなどが行われる夜が本番で、様々な灯りが店を飾り、華やかな様子が伝わります。市切(福切)についても「古久文ヤ、ミスヅノ市喜禮ヲ賣ル所ハ人山ヲキツイテ、ワイワイトオシ合ツテ買ツテキマス」と書かれています。市切は、主に呉服屋が時間をきめて値引きした布などを販売する、今でいうタイムセールのような

なもので、あめ市の中でも特に人が集まり、あめ市のにぎわいを象徴する場面



本町五丁目の宝船(明治30年代か)

でした。子どもたちの目にも、人の多さが非常に印象に残ったのではないかと思います。

本町五丁目の宝船についても「本町五丁目ノ七福人ノタカラ船ハ大ソウ見事ナ物デアリマシタ」と書かれています。本町5丁目の宝船は、かつては、高さ2m程の櫓にのせて天神小路の入り口に飾ったといわれています。

子どもたちの書いた作文は、当時のあめ市の様子が子どもたちの目を通し鮮明に描写され、大正期のあめ市について多くのことを知ることができます。また、作文の中には「待チニ待ツタ」という言葉が頻繁に登場し、あめ市が冬休みの子どもたちの一番の楽しみだった様子がうかがえます。

一部分だけの紹介になりましたが、今回の企画展では、そのほかの生徒一人ひとりが、どのようにあめ市について書いているのか、作文をパネルにして展示します。ぜひご来館ください。

[会期]1月5日(火)～1月31日(日)
※月曜休館、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
[会場]松本市時計博物館 3階企画展示室
[料金]無料(1・2階常設展は通常観覧料)

カッコウ時計とハト時計

カッコウ時計は、ドイツのシュヴァルツヴァルト地方で作られました。農家の仕事が少ない冬に、家族で時計づくりを行っていたのが始まりといわれています。

日本でつくられたハト時計も、カッコウ時計と仕組みは全く同じです。ハト時計の鳴き声もよく聞くと『カッコー』と鳴いていることがわかります。これは、日本では「閑古鳥」と書き縁起が悪いとされるカッコウのかわりに、平和の象徴であるハトを使い、カッコウ時計をハト時計と呼ぶようになったためといわれています。

(時計博物館 学芸員/原澤 知也)



カッコウ時計
19世紀 ドイツ製

15分になると左の窓からカッコウが出て一鳴きします。その後、15分毎に鳴き数一つずつ増えていきます。60分には右の窓からカッコウが出て、時の数だけ鳴きます。カッコウが鳴いているときに、松ぼっくりの形をした鐘が、ジリジリ下がっているのも見どころです。



ハト時計
昭和時代 日本
手塚時計社製

外枠は木製で、左側の窓からはハトが出てきて時報の数だけ鳴きます。右側の窓は人形が出てきてオルゴールを奏でます。

松本市立博物館 新春臨時開館中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎年1月3日に行ってきた松本市立博物館新春臨時開館を、令和3年は中止とします。また、「宝船七福神と干支ピンバッジ」の製作・販売も令和3年は行いません。

重文馬場家住宅から

☎0263-85-5070

内田のおんべ祭り見学会

松本市重要無形民俗文化財に指定されている「内田のおんべ祭り」と周辺の御柱を見学します。

日 時 1月14日(木) 正午～午後4時
場 所 松本市内田地区及び塩尻市片丘地区
料 金 310円
定 員 10名
申込み 1月10日(日) 午後5時まで受付
その他 行程は全て徒歩での移動となります

山と自然博物館から

☎0263-38-0012

冬の野鳥観察会

公園内を歩きながら冬鳥などを観察します。

日 程 2月6日(土) 午前9時～11時
会 場 アルプス公園内(集合:山と自然博物館)
参加料 無料
定 員 15名
対 象 小学生以上の子どもとその保護者・大人一般
講 師 丸山隆氏(元信州野鳥の会会長)
持ち物 野外を歩きやすい服装、筆記用具、双眼鏡(あれば)など
申込み 1月6日(水) 午前9時から電話で受付開始

四賀化石館から

☎0263-64-3900

冬の連続講座「大人のための化石教室」

第1回は日本古生物学会会員による特別講義と収蔵庫見学、第2回は化石のクリーニング作業体験を主に行います。どちらも、大人(高校生以上)を対象とした講座です。

日 時 ①第1回:1月23日(土) 午前9時～正午
②第2回:2月20日(土) 午後1時～4時30分
会 場 四賀化石館2階展示室など
料 金 ①通常観覧料(大人310円)、②500円
定 員 各日20名
講 師 四賀化石館職員
申込み 1月5日(火)
午前9時から
電話で受付開始



昨年の化石教室の様子

考古博物館から

☎0263-86-4710

八十二銀行ウインドーギャラリー展 「古代人、装う!」

大名町通りの八十二銀行ウインドーギャラリーで、古代のアクセサリを写真パネルで紹介します。

会 期 1月15日(金)～1月29日(金)
会 場 八十二銀行松本営業部 1階 ウインドーギャラリー
観覧料 無料

速報展「発掘された松本 2020」

2020年中に松本市内で実施した発掘調査等について、出土品や写真を展示し、その成果をいち早くご紹介します。

会 期 2月13日(土)～2月28日(日)
※月曜休館、休日の場合はその翌日
会 場 時計博物館3階 企画展示室
料 金 時計博物館の通常観覧料(大人310円、小人150円)

関連事業「発掘された松本2020～松本市遺跡発掘報告会～」

日 時 2月13日(土) 午後1時～
会 場 Mウイング6階大ホール
料 金 無料
定 員 先着150名
対 象 長野県在住者
申込み 1月25日(月) 午前9時から電話で先着順に受付
問合せ 文化財課埋蔵文化財担当まで ☎0263-85-7064
その他 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、内容が変更または中止になる場合があります。

旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7602

第2回探古会(古文書読解講座)

「武家文書を読むⅣ 一廣澤寺文書に触れて」

日 時 2月28日(日) 午前9時～正午
会 場 松本市教育文化センター3階 視聴覚ホール
料 金 500円(テキスト代として)
定 員 40人(要予約・先着順)
対 象 どなたでも
講 師 後藤芳孝氏/元松本城管理事務所研究専門員
持ち物 筆記用具、飲み物(必要な方)
申込み 2月6日(土)
午前9時から
電話で受付開始



第1回探古会の様子

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況によって急遽中止となる場合がございます。開催の可否等については、各館にお問い合わせください。

あとがき

新型コロナウイルスの感染拡大により多くの人が密な場所を避けて野外に出るためか、今年度に入ってから人々の自然に対する興味関心の高まりを感じる出来事が多くありました。嬉しい反面、大勢が自然環境に足を踏み入れることへの不安もあります。自然を守る心とマナーをもって余暇を過ごしていただければ幸いです。 山と自然博物館 内川 潤季

あなたと博物館 No.232

発行年月日/令和3年1月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com/>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社